

公益社団法人 日本技術士会 **中部本部**
The Institution of Professional Engineers, Japan

2018年

創刊号

技術士

“ちゅうぶ”

～人類の叡智と技を
全ての人と未来のために～

岐阜

愛知

静岡

三重

特集

組織紹介

2018年 3月



技術士“ちゅうぶ”～人類の叡智と技を全ての人と未来のために～

<特集：組織紹介>

－創刊号目次－

【巻頭言】	中部本部	渡邊好啓	1
【地域委員会】	総務委員会	水野朝夫	3
	倫理委員会	春田要一	3
	教育促進小委員会	比屋根均	4
	企画委員会	石川君雄	5
	研修委員会（CPD 委員会）	井辺博光	6
	修習技術者支援委員会	行本正雄	7
	青年技術士交流委員会	石川智康	8
	広報委員会	岡井政彦	8
	活用促進委員会	平田賢太郎	9
	PL 実践研究小委員会	前田持	10
	独立技術士交流委員会	田島暎久	10
	試験業務支援委員会	内田貞武	11
	社会貢献委員会		
	防災支援委員会	平澤征夫	11
	理科支援小委員会	野々部顕治	12
【技術部門別組織】	機械部会	小方弘成	14
	航空部会	堀内和男	14
	電気電子情報工学部会	水野公元	15
	上下水道部会	中西利美	15
	化学部会	平田賢太郎	16
	建設部会	平澤征夫	17
	経営工学部会	石川君雄	18
【支部】	愛知県支部	水野朝夫	19
	岐阜県支部	安田義美	20
	三重県支部	竹居信幸	21
	静岡県支部	長嶋滋孔	22
【その他】	よろず科学技術相談所	橋本宗到	23
	地域産学官と技術士の合同セミナー	野々部顕治	24
【中部本部】	中部本部事務局の紹介		26
	中部本部役員・統括本部委員名簿		27
	編集後記		28

技術士“ちゅうぶ”広報誌発行にあたって

日本技術士会中部本部 本部長 渡邊 好啓 技術士(機械)



公益社団法人日本技術士会中部本部では、ながく検討のみで終わっておりました会誌の発行企画がやっと動き出しました。この企画を担当いたします中部本部 広報委員会では、「人類の叡智と技を 人と地球の未来のために」と題して、技術士に関する様々な情報をこれから発信するため、「技術士 ちゅうぶ」という会誌を発行することとしました。

現在の日本の産業を取り巻く環境は厳しさが増すばかりですが、その厳しさを読み解けば、これからの産業活性化に向けての日本の技術力に対して技術士の役割にも期待できるようにも思えてきます。その科学技術に対する土台にはコンピューターの発達をもたらしたネット社会をベースに、巨大な経済圏が誕生しました。そして、証券会社の株の売買では高速処理競争を招いたり、世界中の出来事がニュースとなって駆け巡ったり、小売りの有店舗商売が日に日に無店舗ビジネスの餌食になっていったりしています。その流れは、いつの間にか、世界的囲碁の覇者や高名な将棋の高段位者が AI ソフトの餌食になるという流れです。・・・いつの間にか、大手証券会社や、世界の手金金融会社などの社員たちは、自分たちの仕事が早急に失われていく様子をイメージして、将来に悲観するニュースまで流れてくるという時代の到来です。

ここ中部地域は、自動車産業や、航空機産業、鉄道産業など、大きなものづくり経済圏となっておりますが、その影響も同じ流れです。欧州や中国で動き出した自動車のEV(電動)化の流れは、構成するものづくり要素部品点数が1割まで減少するとも言われています。自動車メーカーを頂点とする産業構造の中で、下位に位置する中小のものづくり企業に就労する者は、今後の働き場所を確保できるものかどうか、大きな不安材料となっているわけです。

このような社会の動きに対して、影響を及ぼす大きな要素が科学技術にもとづくものであることは間違いのないです。そして、それぞれの場面に対して、どのようにその流れを読み解き、有効な計画立案を行ったり、直面する課題に対しての具体的な解決策を提示できる専門家が必要になります。しかも、このような場面での産業活性化にとって重要な視点が、ビジネスに対する付加価値の創出です。場当たりでドライな利益優先主義だけでは、持続は難しいと思っております。私たちの長い歴史に基づいた日本の文化力が必要になると思います。

これらの産業活性化と科学技術力の重要性の認識の上で、私ども公益社団法人日本技術士会中部本部の組織について、ここで述べておきます。

〔地域委員会〕(記:当本部の活動に対する、核となる組織です)

- －(外部対応)－
 - 倫理委員会・・・技術士及び技術者の倫理の啓発
 - 社会貢献委員会・・・防災・科学技術に関する技術的支援
 - 活用促進委員会・・・技術士の活用促進及び科学技術についての協力
 - 独立技術士交流委員会 独立技術士相互の情報交換、研鑽・交流の促進
 - 青年技術士交流委員会 若手技術士向けの企画、実施及び国際交流、
- －(内部対応)－
 - 企画委員会・・・事業実施についての企画
 - 広報委員会・・・本会本部の広報に関する事項
 - 試験業務支援委員会・・・技術士試験業務への協力・支援
 - 研修委員会・・・CPD 推進
 - 修習技術者支援委員会・・・第一次試験合格者等の修習プログラム及び指針
 - 総務委員会・・・本会本部の秩序・信用の維持、運営管理

【巻頭言】

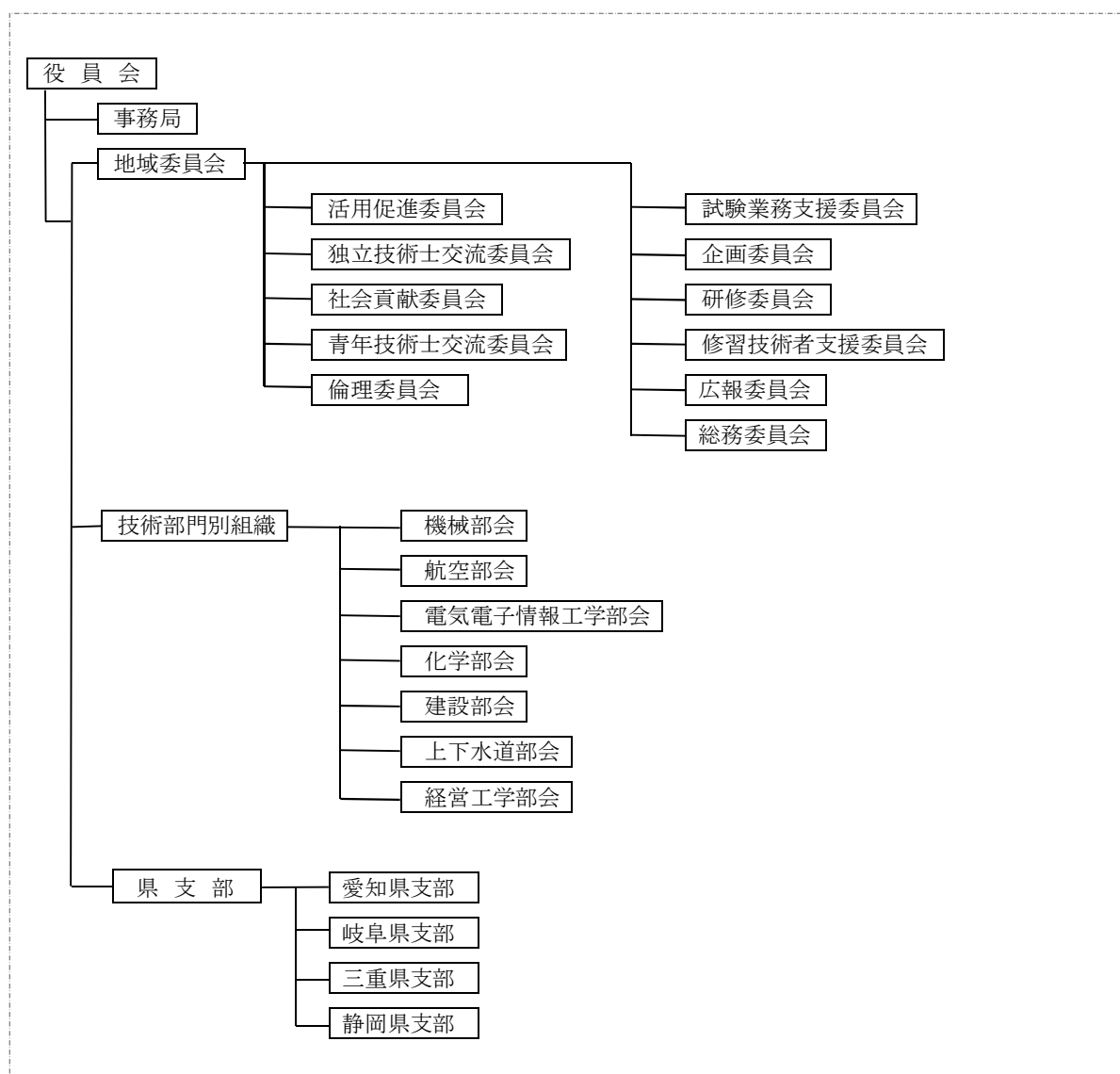
〔技術部門別組織〕（記：科学技術の専門性に関する対応組織で、地域性に基づいた合成部会となっています）

機械部会	．．．．．	機械部門への登録会員
航空部会	．．．．．	船舶・海洋／航空・宇宙部門への登録会員
電気電子情報工学部会		電気電子／情報工学部門への登録会員
化学部会	．．．．．	化学／繊維／金属部門への登録会員
建設部会	．．．．．	建設／農業／森林／水産部門への登録会員
上下水道部会	．．．	上下水道部門への登録会員
経営工学部会	．．．	経営工学部門への登録会員

〔県支部〕（記：各県単位で租部活動を行っております）

愛知県支部	}	各県支部では、県単位の地域密着活動を行っております
岐阜県支部		
三重県支部		
静岡県支部		

－組織図－



＜総務委員会の紹介＞

総務委員長 水野朝夫 技術士（上下水道、衛生工学、総合技術監理）



○活動目的

総務委員会の所管事項は、中部本部の秩序・信用の維持、運営管理及び会員の顕彰に関する事項です。

○活動内容

主な業務は、統括本部総務委員会の活動に準拠し、以下の業務を遂行し、各地域委員会、地域部会等から提出された議案を審議し、中部本部の役員会に上申することが、主な業務です。具体的な項目は、次に示すとおりです。

① 倫理審査の実施 ② 会長表彰の推挙などの会員の顕彰 ③ 組織、役員選挙、名誉会員等の基本制度の流布 ④ 中部本部内諸規定の管理（制定、改廃） ⑤ 中部本部その他地域組織及び部会の運営に関わる事項の企画 ⑥ 中部本部内会員の活動グループの登録管理 ⑦ 中部本部内著作物における本会名称の使用管理 ⑧ 企業内、大学技術士会、地方団体技術士会等の技術士関連団体との連携 ⑨ その他、他の委員会で掌握しない事項等を常設業務として審議検討しています。

○活動委員（委員数は20名以下）

各支部長、各委員会、部会のメンバーにより構成されております。

○委員会開催

原則中部本部役員会の2週間程度前、土/日10時から12時に行っております。

＜倫理委員会の紹介＞

倫理委員長 春田要一

技術士（金属、総合技術監理）



○活動目的

倫理委員会は「技術士及び技術者の倫理の啓発に関する事項」を所掌事項として、①技術士倫理綱領、倫理審査規則等の管理、②技術者倫理の啓発、③技術倫理及び技術者倫理の調査、を主要業務とする。

○活動内容

平成28年度から引き続き、『倫理コードから読み解く技術者倫理』をテーマとしたシリーズ方式での系統だった内容で倫理セミナーを開催している。当面は、技術者倫理のそもそもの目指して技術士倫理綱領に関した研究・研修を本年度も実施している。

平成29年度後半からはシリーズセミナー『時の課題等の解決を模索する』をスタートさせている。また、毎回の運営も座学だけで終わらせないために、聴講参加者全員が何れかのグループに分かれて討論、まとめ、発表する方法をとっている。

倫理セミナー、倫理シンポジウム等で他の委員会・部会との共催を積極的に行い、課題等の解決を模索するとともに参加者の増員を図っている。

倫理委員会の中に設けた「教育促進小委員会」において、技術者の倫理教育を中心とする工学高等教育の専門職技術者教育の促進を図る。当面は大学・高専の講師を増員と養成を図るようにしている。

平成27年度倫理委員会活動報告集を平成29年4月に発行し、倫理セミナー参加者に配付した。無料冊子希望者は中部本部ホームページから申し込めるようにしている。平成28年度倫理委員会活動報告集は平成30年4月に発行する予定である。

平成29年度は倫理委員会10回、倫理セミナー10回、倫理シンポジウム1回、なごや環境大学テクノロジーカフェ12回を開催する予定である。

＜教育促進小委員会の紹介＞

教育促進小委員長 比屋根均 技術士（衛生工学、総合技術監理）



○活動目的

大学・大学院・高専の専門職技術者教育を促進することを目的として、2017年4月に発足した、倫理委員会下の新しい小委員会です。倫理委員会の前身—ETの会の初期から委員等が続けてきた大学・大学院・高専への「技術者倫理」教育が、技術科学哲学やPBL（課題解決型学習）支援などの技術者教育に拡大してきたのに対応したもので、倫理委員会の所掌；「技術者の倫理の啓発」を少しはみ出し、「技術者の倫理的素養教育」全般を扱います。工学教育の専門職教育化を、教育実践だけでなく、この課題全体に関与を深めながら推進していこうと考えています。JABEE（日本技術者教育認定機構）と課題が重なりますが、JABEE 支援が目的ではありません。専門職技術者教育にプロフェッショナル・エンジニアとしてきちんと関与していくこと、そのことによって真に実践的な専門職としての素養教育を実現することが目標です。

○活動内容

1. 講師養成・出講支援活動

「技術者倫理」科目を中心に、多くのメンバーが大学・大学院・高専で非常勤講師等をしていきます。当小委員会はそのサポート役として、模擬講義等による講師の養成、各講義の情報共有、参観支援、講師の担当調整などを行っています。2018年度の出講先の予定^注は次のとおり。

（注：講師契約は、個人マターであり、各講師の責任で教育機関との間で結んでいます。）

大学：名古屋大学、名古屋工業大学、岐阜大学、豊橋技術科学大学、豊田工業大学、愛知工業大学、中部大学、中京大学

大学院：名古屋大学大学院、岐阜大学大学院、三重大学大学院

高専：鈴鹿工業高等専門学校、岐阜工業高等専門学校

また、私たちの資源として、委員による教科書執筆や共著への参画なども推奨しています。

2. 大学・大学院・高専教育者との相互協力

私たちは実務経験豊富な技術者として、専門職技術者がどのようなものを体感的に知っています。でも、大学・大学院・高専教育の実情や課題のことはよく分かっていません。他方、大学・大学院・高専の教育者の多くは、専門職技術者の業務がどのようなものかを知りません。より効率的・効果的に専門職技術者教育を実現していくには、私たちと教育機関の教育者が相互交流・協力し、互いによく知りあう必要があります。そのため、東海工学教育協会をはじめ、各大学・大学院・高専との繋がりを深めていきます。また、そのための機会提供にも取り組みます。

その第1回として、昨年12月16日に「専門職技術者初期高等教育シンポジウム『大学・高専における技術者教育の現状と課題、技術士の役割』」を開催しました。その成果を受けて、更に教育機関・教育者との交流、協力関係を発展させていきたいと考えています。

今年度は4回（6，9，12，3月）、様々なテーマや目的でイベントを実施する予定です。

＜企画委員会の紹介＞

企画委員長 石川君雄

技術士（経営工学、総合技術監理）



○活動目的

- ①中部地域の特徴を踏まえながら、中部本部の技術士会活動の在り方を提示するため検討する。
- ②技術士試験の新合格者に対し技術士会を認知してもらい入会に繋げる。
- ③年度総括のための年次大会を充実し会員等の存在感を醸成、向上する。
- ④各土業・大学等との連携の維持と拡大への取り組みを実施する。

○活動内容

- ①中部本部のビジョン、ミッション、ポリシー等を明確にするためのSWOT分析等を行ったが、取り巻く環境の変化に基づき再実施する。
- ②新入会員増員のため新合格者説明会を1次試験合格者、2次試験合格者の目線に合わせた内容で行い入会し易くする。
- ③年度区切りの年次大会を充実させるため基調講演やパネルディスカッションの位置付け、テーマ設定の考え方を充分議論し決定する。
- ④各土業・大学等との連携の一環としての弁理士会との相互報告会、他土業を含むゴルフ大会を拡大する。



＜研修委員会(CPD 委員会)の紹介＞

CPD 委員長 井辺博光 技術士（化学、上下水道、衛生工学、総合技術監理）



○活動目的

統括本部の研修委員会及びCPD 支援委員会に対応し、中部本部 CPD 事業の為に講演会等諸行事の企画・運営を行う。また、これによって会員の自己啓発及び資質の向上を図ると共に一般市民への社会貢献活動を推進する。

○活動内容

CPD 事業の企画・運営活動として、年間約6回のCPD 委員会を開催する。また、夏季、秋季、冬季、春季には会員はじめ未会員及び学生・市民へも開放した講演会等を実施しています。また、講演会等は、「建設系 CPD 協議会のホームページ」にも登録されており、技術士会会員は、異業種の講演会にも参加することが出来ると共にCPD 単位の取得も可能となっています。

・活動－1 平成29年度CPD 行事の内容と概要

【夏季】名古屋工業大学産学連携センターとの連携による講演会（6月3日（土））

「技術の価値化」半導体基板から刃物づくり「名古屋工業大学副学長 江龍修氏
「グローバル製品サービス戦略」青山学院大学客員研究員 阿部武志氏

【秋季】防災支援委員会、化学部会との共催による講演会（9月9日（土））

「大震災に備える専門士業の役割と課題」統括本部防災委員・技術士 山口 豊氏
「化石燃料の枯渇がもたらす経済成長の終焉」東京工業大学名誉教授 久保田宏氏

【冬季】倫理委員会とのコラボレーションによるミニ・シンポジウム（12月2日予定）

「コミュニケーションデザイン視点の技術倫理」大阪大学教授 池田光穂氏
「技術倫理の空間的・社会的・時間的な広がり」倫理委員会副委員長 比屋根均氏

【春季】電気電子・情報部会との共催による講演会（30年3月17日予定）

「超伝導・リニアに関する内容（テーマ未定）」京都大学名誉教授 長村光造氏
「最近のWEB、AIの動向と展望（テーマ未定）」名古屋工業大学教授 新谷虎松氏

・活動－2 平成29年度CPD委員会実績と今後の予定

臨時CPD委員会	4/22	10:00～12:00	中部本部会議室（済）
第1回	6/3	9:30～11:30	中部本部地下2階会議室（済）
第2回	7/29	10:00～12:00	中部本部会議室（済）
第3回	9/9	9:30～11:30	中部本部会議室（済）
第4回	11/18	10:00～12:00	中部本部会議室（済）
第5回	18/3/17	9:30～11:30	中部本部会議室（予定）

注1）「建設系CPD 協議会」に関する詳細は当該ホームページをご覧ください。

www.cpd-ccesa.org/

注2）中部本部主催のCPD 事業に関しては公益社団法人日本技術士会中部本部のホームページを参照願います。 g-chubu@asahi-net.email.ne.jp

＜修習技術者支援委員会の紹介＞

委員長 行本正雄

技術士（衛生工学）



○活動目的

技術士補・修習技術者及び技術士が所属する企業の技術者、大学・高等専門学校 of 学生などを対象として、その研究業績を社会に公表することで、将来、優れた論文作成能力・発表能力を有した技術士となるための自己研鑽を実施する機会を提供する。

○活動内容

毎年2月初旬に「修習技術者研究業績発表会」を開催する。

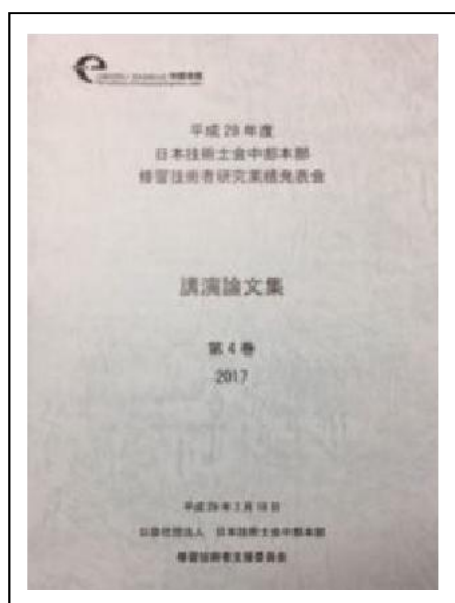
修習技術者支援小委員会の中の編集委員会で、投稿された論文を査読し、著者に修正依頼をした後、毎年「講演論文集」として刊行し、発表論文の中から、「優秀論文・発表賞」に値する研究業績に対して発表会で表彰する。



優秀論文・発表賞（4名）



講演会の発表風景



修習技術者研究業績発表会
講演論文集

＜青年技術士交流委員会の紹介＞

青年技術士交流委員長 石川智康

技術士（情報工学）



○活動目的

若手・中堅技術者は、日常の業務との調和を取りながら、限られた時間の中で研鑽を図っています。本委員会は、例会等を通じた異業種間交流による技術的悩みの解決、自身の技術知見の開発を行っています。

○活動内容

若手・中堅技術者の技術力、発信力等の向上を目指して以下の3つの活動を実施しています。



例会発表の様子



同好会活動の様子



全国青年での討論

- ・ 例会活動 ： 会員による保有技術や技術に関する活動報告、外部講師を招いての講演会、中部地区の現在を知る見学会を行っています。普段、発表機会の少ない会員の発表練習の場の提供、複数技術部門・業界メンバーとの議論の中から、違った観点の考え方や知見を得ることが出来ています。
- ・ 同好会活動 ： 数ある技術の中から興味のあるアイテムに関して自ら活動を企画、現地現物で感じ、技術士としての結果考察、深掘り等を行っています。フィールドワークを基本とし、会員のご家族や一般の方々も含めて研鑽に励んでいます。
- ・ 全国交流 ： 全国の青年委員会との交流により、技術討論や広い人脈形成を行っています。

＜広報委員会の紹介＞

広報委員長 岡井政彦

技術士（電気電子）



○活動目的

広報委員会は中部本部会誌の企画、編集、発行等を中心に、その他関連する本会の広報に関する事項を担当しています。委員会は委員長他 8 人で構成していますが、委員には愛知県在住者以外に静岡、岐阜、三重の各支部からの推薦者も入っていただき、できるだけ中部 4 県の広報活動となるように留意されています。

また日本技術士会統括本部（東京）の広報委員会と連絡を密にして、月刊「技術士」への掲載記事の執筆者人選や原稿依頼などの取りまとめも、広報委員会で担当しています。

○活動内容

- ・ 中部本部広報誌の企画・編集・発行
- ・ 中部本部ホームページ (<http://chubu-ipej.sakura.ne.jp/>) の管理
- ・ 日本技術士会広報委員会
- ・ 日本技術士会の情報管理責任者
- ・ 中部本部役員会メンバーのメーリングリストの管理

＜活用促進委員会の紹介＞

活用促進委員長 平田賢太郎

技術士（化学）



○活動目的

国家資格、技術士を獲得することにより、どんな夢が描けるのか、技術士を獲得したが仕事はあるのか、どのようにして仕事にありつけるのか、このような素朴な疑問を持っている技術者は非常に多いと思います。昔から、泳げない者を泳げるようにするには海へ放り込めと云われてきましたが、技術士として生きていくための種々の機会を用意し、其処に果敢にチャレンジしていただくことで、自信をつけ、自立していただくことを目標としています。このような一人一人の活動を通して、社会貢献を果たし、公益社団法人としての日本技術士会の意味づけを確固たるものとしたいと念願しています。

○活動内容

1. 技術士活用促進・開業支援シンポジウム開催
 - ・若い人に夢と理想を説く切り口／技術士事務所運営ノウハウ
 - ・講師 4名 各55分のレクチャー実施
2. 販売促進相談会の開催
 - ・主催：一般社団法人 東海地区信用金庫協会
 - ・ビジネスマッチング‘ビジネスフェア2018’於 メッセ名古屋
 - ・応募技術士にて、相談会応募企業及び当日飛び込み企業に対して相談実施
3. 外部依頼対応
 - ・業務紹介 ・指導技術士紹介 ・その他、人材紹介
4. 公的機関ルート策定
5. WEB 支援基礎講習開催 中部本部会員、未会員より募集
 - ・JIS、法文書等公文書の書き方・著作権法
 - ・プロジェクトマネジメント
 - ・知的資産経営 WEEK2017

＜PL 実践研究小委員会の紹介＞

PL 実践研究小委員会委員長 前田 持

技術士（機械）



○活動目的

PL 法すなわち製造物責任法は、第 1 条～第 6 条までのきわめて短い法律であるが、PL に関する書籍、裁判事例などはきわめて多い。これらの書籍を理解し、PL で悩む企業の手助けを目的として活動している。

○活動内容

この研究会は平成 10 年 6 月 9 日に第 1 回研究会を立ち上げている。このときのメンバーは学識経験者 5 名と技術士 12 名でスタートしていた。当初は「現状の事例を持ち寄り、研究する」「我々が関与した事例の見直し、肉付け」「凡例を利用して研究」「巾広く PL に関する情報の交換の場」などのテーマを検討した。

その後小委員会の前半 1.5 時間は書籍(テキスト)の解説(あらかじめ分担を分けられたページについて、担当者が事前勉強しこれに基づいて解説)、後半は各メンバーが新聞などの PL 事例、自分が経験した PL 事例等を持ち寄り紹介する方法で 2 ヶ月に 1 回、現在まで 19 年間 113 回つづけている。



＜独立技術士交流委員会の紹介＞

独立技術士交流委員会 委員長 田島暎久

技術士（航空・宇宙）



○活動目的

事務所を構えて活躍する独立技術士の相互情報交換、研鑽・交流の促進を目的に活動を展開している。その一環として中部本部の国際活動も担当して統括本部の海外活動支援委員会と日韓技術士交流委員会の委員を当会から選出、派遣している。

○活動内容

当委員会の源流は平成 15 年に始まった「シニア技術士会」にある。その後、「独立技術士会」に改称され、平成 23 年には日本技術士会の公益社団法人化にともなう中部本部の組織改編によって活用促進委員会の傘下で「独立技術士小委員会」となった。さらに今年度から活用促進委員会の傘下から離れて現在の「独立技術士交流委員会」となった。

当委員会は原則として偶数月の第 4 木曜日に中部本部の会議室において委員会とセミナーを開催している。委員会では独立技術士の活動に有益な情報交換やセミナーの企画などを中心に議論する。

セミナーは、原点の「シニア技術士会」以来、一度も欠かさずに延々と続いている。会員講演に続いて外部講師の講演を聴講して自己研鑽に努めている。セミナー後の懇親会は、外部講師も交えた和やかな雰囲気の下、更に突っ込んだ情報交換と研鑽の場となっている。昨年度からは 12 月のセミナーを「愛知中小企業家同友会」と合同で開催して中小企業経営者との交流を深めている。また、機会があるごとに企業見学会も開催している。写真は 2016 年 6 月の（株）UACJ・名古屋製造所見学会。



＜試験業務支援委員会の紹介＞

試験業務支援委員長 内田貞武 技術士（上下水道、総合技術監理）



○活動目的

技術士試験は、毎年 7 月に第二次試験、10 月に第一次試験と年 2 回行われている。

中部本部の試験業務支援委員会は、全国 13 試験会場のうちの愛知会場を担当し、技術士試験センター（東京）と協力して、試験の公正且つ円滑な運営を目指して活動している。

○活動内容

- ・ 2017 年度実績：第二次試験 総監部門 受験申込者 333 名 於 名工大
その他 20 部門 受験申込者 2,497 名 於 名工大
第一次試験 受験申込者 1,739 名 於 名工大
- ・ 試験の準備 試験業務支援委員会開催 年 3 回開催、渡邊本部長始め委員 12 名
試験前の主任監督員への説明・検討会 年 2 回開催
試験会場の下見、教室の選定・座席配置の確認、受験者用の案内図・ビラ等
作成、試験用備品・コピー機・トランシーバー等の準備・その他
- ・ 試験中 試験室案内、試験室管理、トラブル等への対応等
- ・ 試験後 受験者数・受験率の纏め、答案用紙・残った問題等を試験センターへ返送
- ・ 今後の課題 試験会場の確保（2,000 名以上の試験会場の確保が難しい）
試験業務支援委員、主任監督員の若返り

＜防災支援小委員会の紹介＞

防災支援小委員会委員長 平澤征夫 技術士（建設）



○活動目的

中部本部における技術士による各方面での防災支援活動を活発化する。

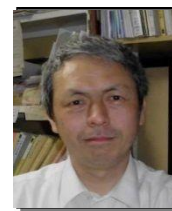
○活動内容

- ・ 中部本部主催中部本部秋季例会における講演会への講師を選択し派遣すること。
具体的活動は、各県支部を中心に地域に応じた防災支援活動を推進する。
- ・ 愛知：平成 29 年度から防災委員会を立ち上げ、第 1 回秋季防災講演会を主催した。
防災研究会、防災教室、セミナー、専門家養成、自治体との支援協定締結を検討
- ・ 岐阜：防災支援委員登録呼びかけ、防災教室の開催
- ・ 三重：防災支縁委員呼びかけ、防災関連資料配布、自治体への防災テーマに関するテクノカフェの実施
- ・ 静岡：静岡県地震防災センターとこども防災教室を開催、マンション防災マニュアルの作成
研修、静岡市と防災ワークショップ開催、牧之原市との包括協定に基づく支援継続、
静岡県との災害協定に係る協議の実施、静岡県土業連絡会関連活動、連絡体制整備

<理科支援小委員会の紹介>

委員長 野々部顕治

技術士（上下水道、衛生工学）



○活動目的



日本の科学技術の将来は、子供たちの手にかかっている。小中学校の先生方ではできないような面白くて迫力のある理科実験により児童に夢と感動を与え、科学技術立国日本の将来を担う人材を育てたい。

そこで理科支援小委員会では主に小中学校へ講師を派遣して、様々な実験や観察の特別授業を行っている。科学技術についての経験や知識が豊富な技術士は、下記のような特色ある講座実施が可能である。

- ①「理科授業で学習したことが世の中でどのような技術に生かされているか。」を伝える。
- ②「それによって我々の生活がどのように良くなっているか。」を伝える。
- ③その技術分野について、小学生の疑問に対しわかりやすく的確に回答する。

○活動内容

委員会は年4回開催し、主に下記の理科支援活動の企画や課題への対応を話し合っている。

対象：小学校5,6年生が多いが、4年生以下や中学生に対しても実施可能

窓口：東海4県の、各県または政令指定都市の教育委員会など

時間：45分×2コマが基本単位だが各校の要請などにより増えることもある。

実績：平成19年度から平成28年度までに319件

講座数：69講座

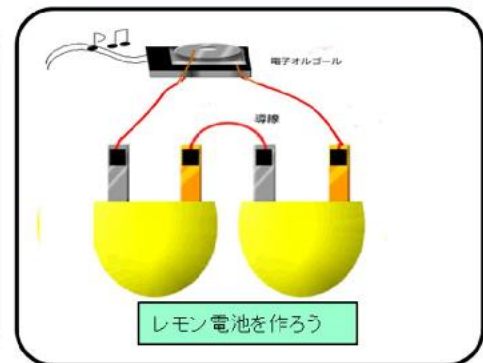
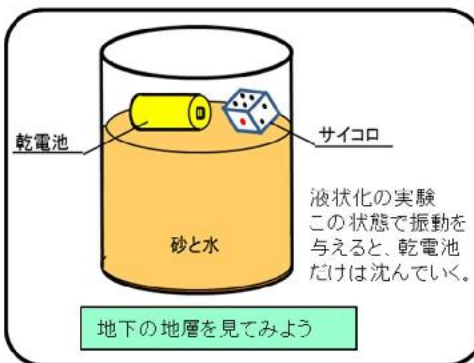
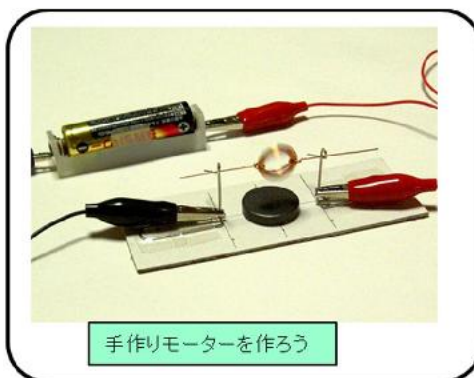
主な講座は、右図のとおりである。

それ以外にも、様々な活動を行っている。

より良い特別授業を行うための研鑽にも力を入れている。年に3回ほど「理科実験授業研究会」を開催し、意見交換や討議を行っている。

一昨年からは、毎年10月に理科支援講演会を開催している。本年は名古屋市理科教育研究会会長で名古屋市立八王子中学校校長の上井靖校長先生を講師にお招きし、大変興味深い体験型ワークショップをしていただいた。

詳細は、ホームページ参照のこと。<http://chubu-ipej.sakura.ne.jp/science/index.html>



小学校での理科特別授業トピックス

2018年2月 中部本部理科支援小委員会/静岡県支部理科支援委員会



小学生から理科授業講師に礼状

中部本部静岡県支部の理科授業講師・小泉雅弘会員が11月2日、掛川市の大坂小学校で4年生を対象に「ものの温度と体積」と題する理科授業を行ったところ、後日同小学校から「小泉先生、ありがとう」というB5版の小冊子が送られて来ました。

児童50人(2クラス)ひとり一人が授業の印象やお礼の気持ちを記したレター50枚を一ページずつまとめた50ページの小冊子です。「楽しかった、面白かった」、「また別の実験にも来てほしい」などが記されており、理科好き児童を増やすことが日本の将来に役立つとの思いをもとに努力してきている理科支援小委員会としては嬉しい反応です。



理科授業では後日担任の先生にお礼を言われることは少なくありませんが、児童からここまで感想等を記した記録を受け取った例は近年では例がなく(※)、講師一同、今後一層理科授業に注力したいと思わせる事例なので紹介します。



【背景】

中部本部では平成19年より理科支援小委員会を設け、小学校における理科特別授業を進めてきております。

例年、講座一覧を県教育委員会など通じて小学校に配布し、各学校で実施要望の講座を理科支援小委員会に連絡してもらう手順です。報酬はありませんが、統轄本部に申請すると交通費込みで、一件1万円の補助があり、また静岡県内小学校の授業に対しては山崎自然科学教育振興会による交通費補助と報酬があります。

理科支援小委員会では講師の高齢化対応や講座の幅広い分野拡大のため、新規講師を常時募集していますので、関心ある方の連絡をお待ちします。※なお過去にも受講した全児童の礼状を小冊子にして送られてきた事例が2件ありました(平成22年)。

以上

＜機械部会の紹介＞

代表幹事 小方弘成

技術士（機械）



○活動目的

中部の機械部門の技術士を主体に構成された機械部会は、2015 年 3 月より本格的に活動を開始しました。技術士の方に対しては、CPD 行事の提供、資質向上、人脈形成、技術士としての活動分野の拡大と情報を、技術士以外の方へは、講師の派遣や、技術士を必要とされる方への技術士の紹介などを行っています。

○活動内容

現在、9 名の幹事で運営にあたっており年に数回の幹事会を開催しています。主たる活動として、東京で開催されている月例会を WEB 中継しており、中部本部会議室で聴講することが可能です。（開催は毎月第 2 金曜日の夜、案内は技術士会 HP に掲載）その他、WEB 中継を実施しない月は、中部独自の会合をオフ会と称して 2018 年 1 月から始めました。オフ会はメンバーが自分の専門技術や趣味や特技について懇談形式で語り合うことで親睦を深めることができ、好評を博しています。機械部門だけでなく他の部門の方の参加も広く歓迎しています。活動を通じて交流を図り、研鑽に励みたいと考えておりますので、皆様の参加、メンバーへの登録をお待ちしています。

問合せ先：g-chubu@asahi-net.email.ne.jp（中部本部事務局気付け 機械部会代表宛）

※メールの識別のため、件名に【機械部会問合せ】を記入して送信ください。

＜航空部会の紹介＞

部会長 堀内和男

技術士（機械）



○活動目的

航空・宇宙部門の技術士で実務の担当者、経験者が中部地区に集まっており、相互の交流を深めることにより、技術士活動の活性化を図り得るとの思いから設立され、航空・宇宙関連技術に関して、技術士会員の交流/親睦、情報交換、継続研修などの活動の場を提供する。

○活動内容

原則として、2 か月毎に懇話会形式の定例会を開催する。必要に応じて、臨時会議、見学会などを開催することがある。本会を継続して開催することを 会員の重要任務としています。日本技術士会所属の航空・宇宙部門の技術士、技術士補を中心に構成するが、本会の趣旨に賛同し幹事の合意を得た方は会員扱いとする。航空・宇宙産業があらゆる技術の集合体であるように、中部航空部会の会員は航空・宇宙部門に限らず、機械部門、電気電子部門、金属部門など航空・宇宙産業に関係する部門の会員で構成されている。

また、定例会と一緒に行う講演会には、一般者も参加する。会員の多くが愛知県、岐阜県在住のため、活動拠点として日本技術士会中部本部及び岐阜駅前の岐阜大学サテライト・キャンパスを交互に使っている。

＜電気電子情報工学部会の紹介＞

部会長 水野公元

技術士（電気電子）



○活動目的

電気電子情報工学分野は進歩と変革が非常に速い技術分野です。近年においてデジタルトランスフォーメーションとか、IoT×AI による第4次産業革命等が叫ばれております。特に電気電子情報工学分野の技術士はその変革の大海原にいても過言ではありません。このように進歩と変革が激しい分野においては、資格を取得したからそれで満足と言った事は許されず、絶えず、最新技術の研鑽、温故知新の技術の研鑽、基礎技術の再学習が欠かせません。また、会員の皆様の年齢層も大変幅広く、多様な業界、立場の人から構成されています。本部会ではそのような会員の皆様に最新の技術等の研鑽、会員自ら講演を行う等、発信の機会の提供、会員の相互親睦、業務情報交換等、楽しみながら学び交流する場の提供を目的として活動をしております。

○活動内容 参考ブログ (<http://chubudendenjo.blogspot.jp/>)

1. 会員は電気電子部門、情報工学部門の技術士、技術士補、修習技術者ならびに本分野に興味がある他部門の技術士関係者、その他、教育関係者等から構成されております。
2. 例会（講演会、見学会、終了後の親睦、情報交換交流会）は現在、年4回、WEB講演会は年4回程度の開催、また、中部エレクトロニクス振興会との相互協賛行事への参加も実施中です。例会の開催日は土曜日の午後、大学等にて、またWEB講演会は平日の定時後 中部本部会議室にて実施しております。電気電子情報工学 大好き人間の皆様のご参加をお待ちしています。

＜上下水道部会の紹介＞

部会長 中西利美

技術士（上下水道）



○活動目的

中部本部には約100名の上下水道部門の会員がいますが、多くの会員が業務に携わっており、東京で開催されている部会には、時間と費用の問題で参加が困難な状況です。この状況を打開する方策として中部上下水道部会は、2015年に日本技術士会が公益社団法人となったことを契機として統括本部の上下水道部会の協力を受け発足しました。

目的は、会員サービスの向上、部会の活性化、他地域本部との連携です。

○活動内容

発足からの期間がまだ浅く、中部本部管内の独自活動への取組みは模索中です。

いまのところ、統括本部の上下水道部会が主催する【定例講演会】を、WEB中継の仕組みを活用して中部本部会議室で調子の悪い受信機で受信し、部会会員の相互研鑽に務めています。なお、WEB中継の講演会を聴講した後は、有志による一時間半程度の【情報交換会】も開いています。かなり少人数なので、普段聞けない話も聞けて有意義です。

また、上下水道部会と銘打っていますが、関連他部門、衛生工学部門、環境部門と共同歩調で部会を運営していくことも視野に入れています。興味のある方は、事務局の村橋光臣技術士（上下水道・衛生工学・総監部門）murahashi@envir-d.co.jp までご連絡ください。お待ちしております。

＜化学部会の紹介＞

部会長 平田賢太郎

技術士（化学）



○活動目的

- ・技術士資格は科学技術分野での国家資格として、高く評価されている。
- ・外部評価維持・向上のため更新制度導入はじめ技術士制度改革が始まる。
したがって、公益社団法人日本技術士会による運用基準に則した運営を行う必要がある。また中部本部及び化学部会より名実ともに認知される必要がある。
- ・何故苦労して技術士になったのか。その上2万円／年もの会費要。一方、所有していない立場からは依然として高嶺の花-獲得困難な国家資格と想定されている。
- ・個人でビジネスができる、したいという願望・夢の実現への支援
- ・65歳からは、通常は年金生活が可能なるもそこから長く、20年以上ある。
したがって、ライフワークを持つことが推奨されることから、化学部会は会員のライフワークを支援する場であるべく、情報発信の拠点と位置づけることとする。



異業種・異経歴・異文化を背負う会員が、プレゼン・質疑応答を通して感性が磨かれ、新しい行動の原点となり得ることから極めて意味が大きい。

○活動内容

1. 目指す処

各ライフワークにおいて、20年後の夢を描き、この10年間の行動計画を示す。
そのための情報発信の拠点とする。

2. 方針

会員資格は日本技術士会会員で、技術士（化学、金属、繊維）、技術士補（化学、繊維、金属）とする。

会員は、自らの足跡及びライフワークにつき紹介する。

化学部会は、会員のライフワークを支援する。人脈、業務紹介、講演受託

1回／年から1回／2年のプレゼンを行う。内容は技術講演、近況報告、業容紹介、業務紹介等とする。具体的運営方針を別記に示す。

3. セミナー・講演会（4回／年、土曜日13：00－17：00 場所－中部本部）

4. 組織 部会長 平田（2017年度－2018年度の2年）

幹事 常峰、上柳、堀、寺尾

＜建設部会の紹介＞

部会長 平澤征夫

技術士（建設）



○活動目的

建設部会（建設、森林、農業土木の各部門）所属会員相互の技術研鑽と親睦を図ること。

平成 27 年度より中部本部も公益社団法人日本技術士会の地域本部として活動を開始した。

建設部会は新部会長に平澤征夫が任命され、従来とは異なった活動を開始した。すなわち、従来の部会内部例会を、公益社団法人として「外部へアピールできる活動」を目指し、これまでに 3 回行って来た。内部向け例会を、総会のみとし、代わりに年 1 回の外部向け例会とし、日本技術士会中部本部建設部会主催「第〇回秋季講演会」として充実させることとした。

○活動内容

平成 27－29 年度の建設部会活動 最近 3 年間の「秋季講演会」の内容を下表に示す。

	テ ー マ	講 師	開催場所	参加者 人数
平成 27 年 11 月 18 日 (水)	「構造物の瑕疵の法的責任 と維持管理」 講演 1. 土木構造物の瑕疵 に対する発注者、施工者、設 計者の法的責任 講演 2. 構造物の維持管理 と人の役割	江副 哲 氏 匠綜合法律事務所 弁護士・技術士 六郷 恵哲 氏 岐阜大学工学部長 (教授)	名城大学名 駅サテライ ト(MSAT)	110 名
平成 28 年 10 月 19 日 (水)	「南海トラフ巨大地震に対 する建設技術者の防災・減 災技術」 講演 1. 南海トラフ地震に 対する防災減災の取組 講演 2. 地震津波シミュレ ーションによる被害予測と 防災・減災対策	可児 裕 氏 国土交通省中部地方 整備局総括防災調整 官 川崎浩司 氏 (株)ハイドロソフト 技術研究所開発セン ター長	「ウインク あいち」 902 号室	104 名
平成 29 年 10 月 18 日 (水)	「公共建設の現状と方向そ して水防災解析の最前線」 講演 1. 愛知県における社 会資本整備の羅針盤～建設 部方針 2020～ 講演 2. 都市の水防災に関 する数値解析技術の構築と 活用	河野 修平 氏 愛知県建設部長 武田 誠 氏 中部大学教授	マザックブ ラザ 4 階会 議室	64 名

＜経営工学部会の紹介＞

部会長 石川君雄

技術士（経営工学、総合技術監理）



○活動目的

- ①技術士会、経営工学部門の技術士及び関心のある技術者等の知見の進化・深化を目的とする。
- ②他土業等との積極的連携により、技術士の役割の認知向上を目的とする。
- ③経営工学部会を地域に根差した特徴のあるオープンな部会を目的とする。

○活動内容

- ①隔月の他団体講師を含む経営工学に寄与する多彩な講演会を開催する。
- ②工場見学会、海外視察、他土業共同主催講演会等開催する。
- ③技術士会、本部経営工学部会を中部で開催準備する。
- ④開かれた経営工学部会のため他経営支援団体への広報を充実する。

－ ちょっとひと休みギャラリー －



「名城街園噴水」写真：横山 芳昌



＜愛知県支部の紹介＞

支部長 水野朝夫 技術士（上下水道、衛生工学、総合技術監理）



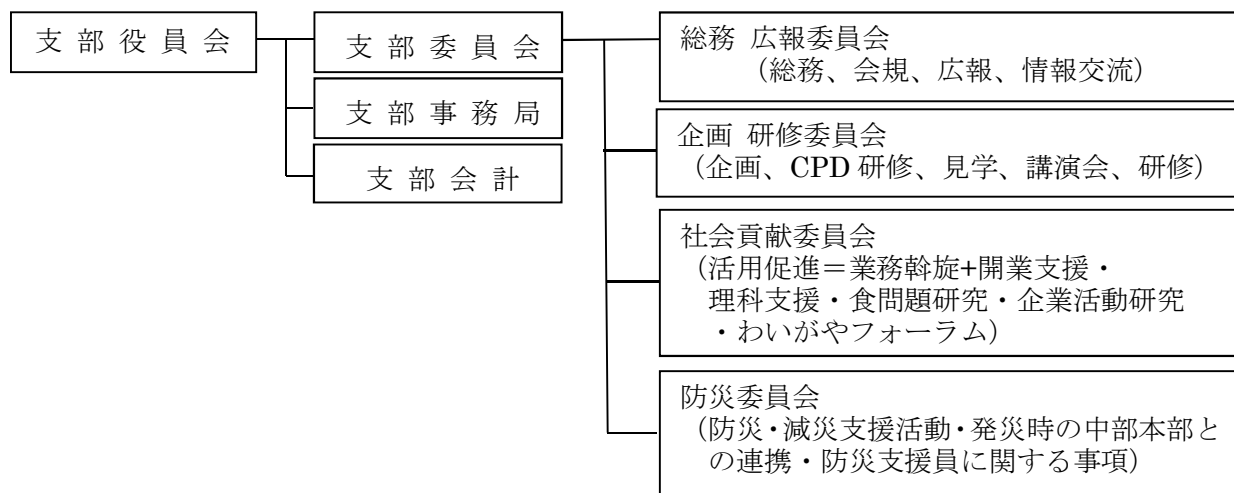
これまで 20 年以上にわたり活動してきました愛知県技術士会を発展的解消、2014 年 11 月に理事会で承認され、2015 年度に活動体制を組織化し、10 月から活動を開始しました。

○活動目的

- ・技術士会の魅力は、何と言っても「様々な技術分野の多くの一流技術者との繋がりができること」です。
- ・愛知県支部は、「多様な組織とのコラボを通じて、組織活動の活性化を推進する」との支部方針が示しております。技術士だけの集団では、広い見識は育ちません。種々の職場で、いろいろな立場で仕事をされている方が、多くおられます。技術士会は、狭い範囲でなく、産学官と外部の色々な方々とコラボしながら、視野を広げてまいります。「外部に開かれた技術士会活動」を目指しております。
- ・愛知県支部は、正会員約 700 名、準会員約 200 名の組織です。皆様と意見を交わし、実りある活動を続けてまいりたいと思います。

○活動内容

①愛知県支部における組織体制



②支部行事（2017 年度）

- | | | | |
|----------------------------------|---|--------------|----------------------|
| 年次大会（第 2 回） | ： | 6 月 17 日(土) | |
| 第 1 回例会 | ： | 8 月 5 日(土) | 「企画研修委員会担当」 |
| 第 2 回例会 | ： | 9 月 23 日(土) | 「社会貢献委員会わいがやフォーラム担当」 |
| 第 3 回例会 | ： | 10 月 7 日(土) | 「社会貢献委員会企業活動研究担当」 |
| 第 4 回例会 | ： | 10 月 18 日(水) | 「防災委員会担当」 |
| 第 5 回例会 | ： | 10 月 29 日(日) | 「社会貢献委員会理科支援担当」 |
| 「地域産学官と技術士との合同セミナー」名古屋開催（統括本部行事） | | | |
| | | 11 月 25 日(土) | |
| 第 6 回例会 | ： | 2 月 10 日(土) | 「企画研修委員会担当」 |
| JAXA 相模原見学会 | ： | 3 月 12 日(月) | 「企画研修委員会担当」 |

＜岐阜県支部の紹介＞

支部長 安田義美

技術士（経営工学）



○活動目的

岐阜県支部は、技術の研鑽、会員相互の懇親を図るとともに、公益社団法人として社会に開かれた技術士活動の見える化を心掛けて、技術士の活動を一般社会の人々に認知してもらうことを目的として幅広い視野からの活動を進めています。

活動の柱となる講演会および見学会等について、技術的視点のみではなく、社会のトレンドなテーマも取り入れ、会員外の方々にも魅力ある企画を心掛けています。

また、社会貢献活動（防災、技術支援等）を通して社会との繋がりを強めていくとともに、中部本部の「明るく、楽しく、役にたつ」のモットーに則り活動を進めています。

○活動内容

①研鑽／懇親

- ・ 講演会： 会員の技術士としての資質向上、最新情報の収集等を狙いとして、年間6回講演会を開催。毎回、会員1名および来賓1名による講演を行っている。講演会終了後に交流会を行い、会員相互の懇親を深めている
- ・ 見学会： 不定期開催 近隣企業の工場見学等を行っている。

②社会貢献

- ・ 防災委員会 小学校での防災教室の企画および講師派遣、地域社会での防災教室の開催等を通して社会貢献を進めている。
- ・ 教育機関との連携 近隣の岐阜大学、岐阜高専等から講演会への講師派遣、学生の講演会への優先参加、実務経験／知識をもとに当支部から学校における研究テーマ選定への助言等を行い教育機関との連携を深めている。

③技術士活用促進

- ・ 岐阜県士業連絡協議会に入会しており、同会の活動を通じて、他の“士業”との交流を深めるとともに、業務連携を進めつつある。（弁護士、中小企業診断士等）
- ・ 士業連絡協議会主催の「なんでも相談フェア」に相談員を派遣し、一般市民からの相談に応えている。
- ・ 岐阜県工業会に入会しており、同会を窓口として会員企業との情報交換や企業への技術支援を行っている。
- ・ 一般企業からの技術支援依頼を会員に紹介し、スムーズな技術支援の実施をサポート。



講演会の様子（2017年5月）
（於：岐阜大学サテライトキャンパス）

＜三重県支部の紹介＞

支部長 竹居信幸

技術士（建設、総合技術監理）



○活動目的

支部の運営にあたっては、以下に示す基本方針により、インフラ系とものづくり系の会員のそれぞれに役立つ支部活動を目的としたいと考えています。

基本方針 ‘外部に開かれた会員の役に立つ技術士会活動の実践’

執行部の刷新 若返り、タスクの明示と責任明確化

- ・日本技術士会の理念に基づき、技術士が可能な社会的貢献を目指す。
- ・会員数の増加により、組織力向上を図る。
- ・会員の役に立つ継続的研鑽を図り、思いを反映する。
- ・会員間、諸団体との異業種を含むネットワークを拡大する。
- ・支部役員の役割を明確化し、支部活動の活性化を図る。
- ・技術士制度等の改定についての情報を速やかに伝達することで会員の権利を守る。

○活動内容

セミナー（例会）年４回、カフェ年６回、見学会年２回、交流会年３回、IT 講座



セミナー実施状況



テクノロジーカフェ実施状況



見学会実施状況



IT 講座の実施状況

＜静岡県支部の紹介＞

支部長 長嶋滋孔

技術士（建設）



○活動目的

当支部の前身となる静岡県技術士協会は、昭和 40 年に発足以来、継続教育に関わる研修や多くの地域活動に取り組んできたが、平成 26 年 4 月に静岡県支部設立準備総会を開催し、これまで積み重ねてきた諸先輩の足跡を尊重し、任意団体「静岡県技術士協会」を発展的に解散し平成 27 年 8 月に正式に静岡県支部として発足しました。

平成 29 年 9 月現在会員数は、正会員 232 名、準会員 82 名、計 314 名です。

活動の基本方針は、

- ・会員相互の自己研鑽を支援するとともに技術者集団としての存在価値を広く深く社会に認知していただくことに努力する。
- ・同時に地域社会に貢献することをめざします、その一環として中部本部と連携した防災活動や静岡市、牧之原市との協定など、充実した活動の展開を図り継続する。

○活動内容

・2017 年度事業推進の方針

- (1) CPD（継続研鑽）活動の充実：多くの技術部門に共通の倫理、安全、防災、経営等の講演とともに部門別の講演を試行し、会員とともに一般の方が参加しやすい例会を企画する。近い将来制度化すると思われる技術士資格の更新制度等に関して統括本部の動向、情報に留意するとともに会員各位に情報提供を行う。
- (2) 防災活動の充実：統括本部、中部本部と連携し防災活動や震災の復興支援活動のあり方等を研鑽する。静岡市との「災害協定」牧之原市との包括協定に基づき市との協働で地域に展開し、住民の防災意識の向上等に資するよう努める。静岡県災害対策士業連絡会へ参加し、非常時の対応能力を高める。
- (3) 社会貢献活動の充実：小学校高学年の理科支援特別授業やテクノロジーカフェを推進する。
- (4) 事業開発の充実：中小企業診断協会との連携、静岡県、静岡商工会議所、民間の機関からの受託事業を進めていく。さらに静岡県日中友好協議会から当支部と技術交流したい旨の提案があれば今後も協力して行く。

（テクノロジーカフェ）

・事業計画(2017 年度)

- (1) 年次大会(例会と同時に開催)
- (2) 例会開催：年 6 回
- (3) 地域ブロック活動：東中西地域において随時開催
- (4) 役員会の開催：適宜開催
- (5) 日本技術士会会員の増加に向けた取組：新合格者説明会の実施
- (6) CPD 活動の増加：会員各位へのアンケート実施し CPD 内容の拡充をはかる。
- (7) 防災活動：中部本部社会貢献委員会（防災支援委員会）の方針を基に活動するとともに静岡県等と連携し防災教育（こども地震防災教室(静岡県主催)への協力）を実施
- (8) 社会貢献活動：一般の方へ科学技術の魅力を伝える「テクノロジーカフェ」等の開催
- (9) 事業開発活動：各所への技術支援や業務受託等を継続
- (10) 地区幹事活動：各地区幹事が会員の情報を把握するとともに CPD 講演の企画運営等を実施
- (11) ホームページの管理運営
- (12) 会報の発行：年 4 回発行
- (13) 研究会の設立：2017 年度より静岡県支部内での会員相互の情報交換、資質向上を目的として研究会の設立準備を行っている。研究テーマは、会員により起案募集され、「防災研究会」「インダストリー4.0・IoT 研究会」「建設研究会」「総合技術監理部門研究」



＜中部本部登録グループ よろず科学技術相談所の紹介＞

代表 橋本宗到

技術士（機械、総合技術監理）



○活動目的

これからの日本の産業界においては、新技術の開発等での活性化が広く及ぶことが求められている。特に、地域の中小企業事業者に対しての専門家による支援が重要になっている。又、科学技術の進展に伴い専門技術も高度化、細分化しており技術開発や係争問題では個人的解決が困難になりつつある。これらを克服するには専門家の結集や総合力の活用が必要と思われる。そしてこの推進には、低い敷居で立ち寄り、かつ平易な対応を行う活動グループが求められている。その観点でエネルギー問題、環境問題、新製品開発、新規材料開発、事故、災害、係争、トラブルなどにも気軽に相談できることを主眼とした技術士によるグループ活動を目的とする。

○活動内容

1. 中小企業事業者を中心とした技術面に関する課題を抱える方々の課題を解決支援すべく、社会公益性の観点に立脚し公平に広く広報および業務受託活動を行う。
2. 技術評価依頼に基づき、人選、チームを設定し、調査・分析・解析を実施し、グループとして承認の上、評価結果を顧客へ報告する。
3. 平易な対応を重視する観点で月例会を実施し、会員相互の情報の共有化を図り、技術評価に関する事例研究等にて相互の研鑽を図る。



地域産学官と技術士の合同セミナー（愛知）

Seminar of Industry, Univ., Govt. and PEs (in Aichi)

1 はじめに

愛知県はもの作り日本一である。製造品出荷額等が連続 38 年間、全国 1 位である。これは経済産業省「工業統計表・産業編」からのデータであるが、2016 年度は 44 兆円であり 2 位の神奈川県の 18 兆円を大きく引き離す圧倒的な数値である。

11 月に、その愛知県で、地域産学官と技術士の合同セミナーが開催された。技術士会員の方々だけでなく、講演者、来賓その他を含め 100 名近くに膨れ上がった会場は、大変な熱気に包まれた。そして産学官の各視点から大変有意義で示唆に富む多くのご意見が出され、技術士として今後どう取り組むべきか、改めて見つめ直す貴重な機会が得られたので報告する。

2 概要

日程：2017 年 11 月 25 日（土）

場所：マザックアートプラザ 4 階会議室
（名古屋市東区葵 1-19-30）

プログラム：表 1 のとおり

表 1 合同セミナープログラム

項目	主な内容
開会宣言	合同セミナー実行委員長 水野朝夫
挨拶	開会挨拶：中部本部長 渡邊好啓 主催者挨拶：日本技術士会副会長 岩熊まき 来賓挨拶：岐阜薬科大学学長、元愛知県副知事 稲垣隆司氏
基調講演	「分子が開く破壊的イノベーション」 日本化学会会長、中部大学教授、山本尚氏
パネルディスカッション事前公演	「技術者・歴史作家が語るイノベーションの本質」 元株式会社デンソー生産技術部、歴史作家 原嶋茂氏
パネルディスカッション	「次世代技術を実現するための開発から実装まで」 ～化学分野の革新的モノづくりと産学官連携～ ＜パネリスト＞ 産業：原嶋茂氏（コーディネーター） 大学：山本尚氏（日本化学会会長、中部大学教授） 行政：山田容功氏（中部経済産業局産業技術課長） 技術士：鶴田忠志氏（日本技術士会化学部門） 会場との意見交換
閉会挨拶	合同セミナー実行副委員長 野々部顕治

3 セミナー内容

3.1 基調講演

最初は日本化学会会長で中部大学教授の山本尚先生の基調講演であった。題目は「分子が開く破壊的イノベーション」で、化学的専門性の高い部分は難解であったが、他の部分は判り易くご講演いただいた。日本人と欧米人との性格の比較から始まり、破壊的つまり画期的なイノベーションを導く方法論を筋道立てて解説していただいた。応用から基礎へ向けた課題追求型の取り組みは、内向的だがフィーリングを重視する日本人の気質に合い、成果の期待できる優れた方法であるということ、そのおかげで日本からはこれまで多くのノーベル賞受賞者が輩出しているとのことであった。



写真 1 山本教授による基調講演



写真 2 会場の様子

先生は本年有機化学分野で最も権威ある賞「ロジャー・アダムス賞」を受賞されている。「ルイス酸触媒」の研究を世界に先駆けて提案しただけでなくその有用性を実証し、有機合成化学における「分子性酸触媒」という新分野を築いた山本先生ならではの優れた見識に基づくご講演であった。

3.2 パネルディスカッション事前公演

続いて元株式会社デンソー生産技術部で歴史作家の原嶋茂氏にご登壇いただき、「技術者・歴史作家が語るイノベーションの本質」という題目でご講演いただいた。

県下の有力な製造会社である株式会社デンソーに34年間勤務され、総智・総力・協働という理念で様々な技術分野で活躍されたそうである。本業以外の技術はなかなか開花しない厳しい業界ではあったが、イノベーションと呼ぶべき幾つかの取り組みとその成果を紹介していただいた。



写真3 原嶋茂氏によるPD事前講演

3.3 パネルディスカッション

続いてパネルディスカッションが行われた。ご登壇いただいたのは、「産」からは事前講演をしていただいた原嶋茂氏、「学」からは基調講演をしていただいた山本尚教授、「官」からは中部経済産業局産業技術課長の山田容功氏、そして技術士会からは鶴田忠志であった。

討論テーマは下記の3つであった。

- ① 分子性触媒というイノベーションはいかにして生まれたか。
- ② 日本における産学官連携の課題は何か。

- ③ 産学官における技術士の貢献と果たすべき役割は何か。

活発な討論が繰り広げられた。山本教授からは、優れたイノベーションを育むには、あまり細かい指示や制約を与えず自由闊達な風土が良いとのご意見が出された。しかし産学官が連携して成果を上げるとなると、各々の立場を尊重しながらコーディネートをする配慮が不可欠のことであった。

そして技術士に期待されるのは、連携を強化するような積極的なアプローチであり、これまで以上に活用促進していただけるような自己研鑽強化も欠かせないとの力強いご意見も飛び出した。



写真4 パネルディスカッション

4 交流会

交流会は場所を変えて、BeeSTA1888で行われた。お洒落なお店で、飲み物の種類も豊富で、お互いに語り合い、楽しいひと時を満喫しながら、晩秋の名古屋の夜は更けていった。

5 最後に

多くの収穫があり大変示唆に富むご意見やご提言をいただいたが、紙面の都合で書き切れないことが悔やまれる。本セミナーの準備や運営にご尽力された方々には、深く感謝の意を表します。

野々部 顕治 (ののべ けんじ)
技術士(上下水道、衛生工学部門)
中部本部愛知県支部 副支部長
野々部技術士事務所 代表

e-mail : nonobe@tac-net.ne.jp



＜中部本部事務局の紹介＞

事務局



松田あゆみ

平田賢太郎



第 44 回 日韓技術士国際会議（松山）

○平田賢太郎

群馬県伊勢崎市出身、養蚕・織物業の家風で育ったが、石油化学コンビナートの盛衰を経験し培った技術でのコンサルタント業を生業としています。中部本部の11委員会、7部会、そして4県支部の事業活動が技術士活性化の根幹であり、客観性・公平性の視点で全体コーディネートしています。また、秘書の松田さんの真の理解者でありたいと願っています。趣味は硬式テニス、水泳ですが大の大相撲ファンです。

○松田あゆみ

中部本部事務局が花車ビルに開設された当初から勤務しています（ぬしです！）。中日本建設コンサルタント(株)から出向しています。趣味は美容体操と朝風呂、時どきバリ島舞踊家です。夢は定年退職（あと何年？）。日々、個性豊かな会員の皆様から刺激をいただき、のびのびと仕事させていただいております。年間を通して行事がたくさんありますが、中部本部主催の行事にはぜひぜひお出かけください。お待ちしております。

【今後半期の主な予定】

・中部本部	6月 2日（土）	夏季例会	7月 21日（土）	年次大会
	9月 8日（土）	秋季例会		
・愛知県支部	4月 21日（土）	例会	6月 16日（土）	年次大会
	6月 30日（土）	例会	8月 4日（土）	例会
・岐阜県支部	5月 12日（土）	年次大会	7月 7日（土）	例会
	9月 1日（土）	例会		
・三重県支部	4月 7日（土）	例会	6月 23日（土）	年次大会
・静岡県支部	4月 14日（土）	例会	4月 28日（土）	例会
	6月 9日（土）	年次大会、例会	8月 25日（土）	例会
・技術士第2次試験 7月 15日（日）、7月 16日（月）				

詳しくは、ホームページ参照のこと。<http://chubu-ipej.sakura.ne.jp/>

中部本部役員・統括本部委員名簿 (平成29～平成30年度)

中部本部役員

本部長	渡邊 好啓	
副本部長	水野 朝夫	【理事】【愛知県支部長】
		【総務委員長】
	安田 義美☆	【岐阜県支部長】
	竹居 信幸	【三重県支部長】【企画副委員長】
	長嶋 滋孔	【静岡県支部長】
会計幹事	山口 正隆	
	村橋 光臣	
事務局長	平田賢太郎	【活用促進委員長】
事務局次長	上田 直和	【試験業務支援副委員長】
	春田 要一	【倫理委員長】【総務副委員長】
幹事	安藤 雅彦	【活用促進副委員長】
	石川 君雄	【企画委員長】
	石川 智康	【青年技術士交流委員長】
	井辺 博光	【研修委員長】
	内田 貞武	【試験業務支援委員長】
	岡井 政彦	【広報委員長】
	小方 弘成	
	嘉田 善仁☆	【青年技術士交流副委員長】
	栗本 和明	【広報副委員長】
	近藤 衛 ☆	
	鈴木 公元☆	
	田島 暎久	【独立技術士交流委員長】
	富田 剛	
	中川 宗彦	
	野々部顕治	【理科支援小委員長】
	長谷川欽一	
	濱田 常雄	【試験業務支援副委員長】
	平澤 征夫	【社会貢献委員長／防災支援小委員長】
	前田 持	【PL実践研究小委員長】
	牧野 敏行☆	【修習技術者支援副委員長】
	森川 英憲☆	【研修副委員長】
	山之上 誠	
	行本 正雄☆	【修習技術者支援委員長】
	吉川 豊行	
	吉村 元一	
オブザーバー	比屋根 均	【倫理副委員長】【教育促進小委員長】

事務局 松田あゆみ
顧問 蛇川 雄司
稲垣 隆司

統括本部委員

常設委員会委員【総務委員会】
水野 朝夫 ③

実行委員会委員

- ・CPD支援委員会
森川 英憲 ①
- ・修習技術者支援委員会
行本 正雄 ①
- ・青年技術士交流委員会
石川 智康 ③
- ・技術士活性化委員会
平田賢太郎 ③
- ・防災支援委員会
平澤 征夫 ①
- ・科学技術振興支援委員会
野々部顕治 ⑦
- ・日韓技術士交流委員会
田島 暎久 ①
- ・海外活動支援委員会
吉村 元一 ③

本部広報員

岡井 政彦 ①
栗本 和明 ⑤

注記：☆印は新・再任幹事
統括本部委員の①等は担当年数。
①は初年度。

編集後記

広報誌「技術士“ちゅうぶ”」は、中部本部として初めて発刊することになりました。現本部長の強い思いもありましたが、広報委員として一般の会員や会員以外の幅広い方々に中部本部の活動や技術的情報を広く知ってもらい、中部本部の会員各位による活動の活性化を図る思いも重なり、発刊することに至りました。

創刊号は、先ず“中部本部ってどんな組織になっているの？それぞれ何を目的にどんなことをしているの？”ってことを皆さんに知ってもらうことを目的に、特集＜組織紹介＞を組むことにしました。委員会や部会などの活動目的、活動内容を紹介しています。

今後は、中部本部組織での例会、見学会、活動状況など、行事の模様を採り上げたり、その時々旬なトピックスを特集したり、またお知らせコーナー、新人会員紹介コーナー、趣味や自由投稿コーナーを設けるなど、様々な取り組みをしていきたいと思ひます。

編集委員一同、これからも良い「技術士“ちゅうぶ”」を作成していきたいと思っています。皆さまのご意見、ご感想を是非とも聞かせていただき、今後の紙面に反映させて行きたいと思ひます。今後ともよろしくお願いしします。

最後に、お忙しい中、創刊号を発刊に際しましてご執筆、ご協力いただきました皆さまに心より感謝申し上げます。（編集委員：栗本和明 記）



～人類の叡智と技を全ての人と未来のために～

ギャラリー



「名古屋市科学館」写真：横山 芳昌

中部本部 広報委員会

委員長 岡井 政彦

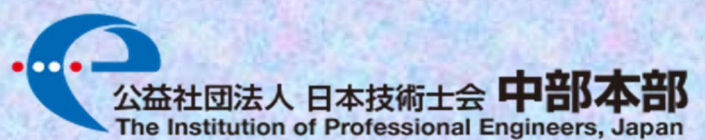
副委員長 ○栗本 和明

委員 横山 芳昌 吉村 元一 五味 道隆 村橋 光臣
小方 弘成 ○高木 智 西方 伸広

(○：創刊号編集担当者)



技術士 “ちゅうぶ” 2018 年 3 月 創刊号



〒450-0002

名古屋市中区名駅五丁目 4 番 14 号花車ビル北館6階

TEL(052)571-7801 FAX(052)533-1305

URL <http://chubu-ipej.sakura.ne.jp/>

E-mail: g-chubu@asahi-net.email.ne.jp

発行責任者 広報委員長 岡井政彦